

エコプレミアムクラブシンポジウム

**エコプレミアムヴィレッジ  
「資源循環型都市の構築に向けて」**

2008年7月28日

慶應義塾大学経済学部

細田衛士

# 講演概要

1. はじめに:これまでの都市政策の破綻
2. 資本主義社会の成熟化と都市：環境要素の重要性
3. 資源のピークアウトとハイパワードマテリアル
4. おわりに

# 一極集中型都市政策の矛盾

1. 近郊都市の環境破壊（スプロール現象、里山の破壊、2次植生の破壊）
2. 都心の一極集中の加速、鉄道会社による沿線の無秩序開発
3. 過密ダイヤと超満員状態の通勤電車
4. 資源循環を考えない都市構造
5. 超郊外化：広がる郊外の概念

# 行政主導の無秩序開発

1. 公団と行政による乱開発
2. 未だに箱モノ主義を脱しない行政も多い
3. 大規模自然開発はほとんど意味を持たない！！⇒高度経済成長の残像
4. 結局だれも責任を取らない開発に終わる
5. 静脈経済を無視した都市づくり⇒結局出てきたものをいかに処理するかという発想⇒廃棄物処理も下水処理も同じこと

# 日本の国土

1. 37万平方キロメートル
2. そのうち24万平方キロメートルが森林、つまり恵まれた緑を持っている
3. すなわち、ごく限られた地域で生活し、生産活動をし、廃棄物を出している
4. もう廃棄物の捨て場所がない！
5. 年間約1800ミリの降雨、水には苦勞しない？⇒でも下水処理には苦勞する

# 成熟化経済社会における自然環境： 資源循環型都市の背後にあるもの

1. 都市や町のアメニティーの重要性
2. 都市景観の再考の必要性
3. 人口が減少する将来の都市像はどのようなものか？
4. ますます見えないモノが価値を生み出す！それがこれからの経済社会
5. 知識・情報そして審美眼の重要性

# 資源循環型社会と都市

1. 廃棄物を埋め立てる場所は、確実になくなりつつある
2. 静脈インフラの整備が急がれる
3. 資源節約型都市・町づくりの必要性
4. そして高付加価値型の住居が求められる
5. 真の豊かさの実現！

# 循環型都市づくりは地域から

1. 「資源ごみ」という言葉を作ったのも地域「混ぜればごみ、分ければ資源」この標語も地域
2. 地域が動かなければ、環境都市はできない
3. 低環境負荷型都市・町づくりの知恵  
(Small is beautiful!)
4. ボトムアップ型の施策が必要⇒帰るところ都市の問題

# 変わる経済

1. GDPの70%以上が第3次産業によって  
生み出される付加価値
2. つまり見えないモノが価値を生み出す時代
3. モノに依存した経済をイメージして都市・町作りをしても、時代遅れ
4. 作っては壊す都市の概念も終焉
5. こうしたことが都市・町づくり政策には  
必要

# 経済のグリーン化が進んでいる

1. 進む省エネルギー⇒都市構造の面ではどうか
2. 進む3R設計：物理的な面でも、また制度的な面でも！⇒いわゆるDfEは常識になりつつある
3. ところが住宅やビルなどの構造物はまだこうなっていない：なぜなのか⇒高度成長の残像

# 資源循環型都市に向けての発進

1. 資源循環型社会では箱モノは終わり
2. 従来からある知恵(ビジネス)を活かせば、資源循環型都市づくりは可能
3. ただし、行政、市民、産業、学界の連携が機能しなければならない
4. これからは、企業の責任が大きくなる：**拡大生産者責任(EPR)**

## 最近の資源相場高

1. 最近、資源・エネルギー相場が高騰している
2. 金はグラム3,000円、白金は6,000～7,000円、パラジウムは1,600円
3. 銅はトン90～100万円、鉛も20万円台
4. 原油はバーレル140ドルにもなった

## 相場高のからくり

1. 現在の資源・エネルギー相場の高騰は、明らかに実需プラスマネーの動き
2. 穀物が高いのも同じこと（将来、穀物は余剰が生じるといふ説もある！）
3. 北京オリンピックが終わり、中国が金融を絞めつけたりすると実需も下がる？
4. 資源の状態は？

## 確かにそうなのだが...

1. しかし、一説によるとオイルはもうピークアウト（生産のピークを過ぎること）するか、あるいは既にピークアウトしたという
2. 実は、鉱物資源などの天然資源もピークアウトが近いのではないか
3. すると多かれ少なかれ、資源・エネルギーのピークアウトを織り込んで都市・町づくりもすべき

# ハイパワードマテリアルの必要性

1. 素材や資源の上にどれくらい大きな付加価値を乗せるかが重要な課題となる
2. もちろん、使い捨てるの時代は終わった
3. 単に使いまわすだけではなく、素材や資源の上により大きな付加価値を乗せることが重要なのだ
4. 高付加価値機能財を住宅建設・都市づくりにも活かすべき時が来た

## これからの課題

1. 動脈経済と静脈経済との均衡が取れた都市づくり、地域づくりが必要
2. 静脈の流れを制御する必要がある⇒都市政策の重要性
3. 都市と郊外地域の連携、パートナーシップの構築が必要
4. そして、資源・エネルギー節約型社会の形成→ハイパワードマテリアル利用

# おわりに

1. 21世紀になって経済はグリーン化せざるを得ない⇒ということは都市・街もグリーン化せざるを得ない
2. 先進的な都市・街では、グリーン化が進んでいる
3. 環境先進企業を伸ばすような都市政策が必要
4. 静脈インフラの整備が都市政策として必要
5. ハイパワードマテリアルの高度利用
6. 環境都市づくりでは、ジャパンモデルを作るべき時が来た